

令和4年度 学校自己評価表（報告）

学校運営計画				
学校運営方針	生徒たちが「高生」としての誇りを胸に、校是である「第一義」を旨とし、学業はもちろん、部活動や学校行事にも真剣に取り組む学校を目指す。			
昨年度の成果と課題	令和4年度の重点目標	具体的目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・SSH生徒研究発表会の3年連続受賞など、MC探究や課題研究をとおして、生徒が主体的に学ぶ態度を身に付けることができた。 ・東大や京大等の難関大学や医学科への合格をはじめ、大学等への進学率が90.0%となり、大きな成果を残すことができた。 ・ICTを活用した授業改善に取り組み、思考力、判断力、表現力等の育成に努めることができた。 ・校内におけるスマートフォンの使用ルール、マナーを徹底に向け、取組の改善を検討する。 ・感染症対策を講じながら、生徒の自治的活動を支援することができた。 	① 学力の向上を図り、聡明な知性を陶冶する。	授業第一主義を推進し、ICTの活用をとおして授業改善に取り組む。	SSH、MC探究を全校で取り組み、自ら課題を発見し、最適解を模索させ、自ら学ぼうとする意欲を醸成する。 経験に勝る知識なし。真の知識を得るための実践力、行動力を身に付けさせる。	
	② 気力と体力を鍛え、豊かな人間性や社会性を涵養する。	行事、諸活動をとおして他者との関わりを学び、リーダーシップ、フォロワーシップを身に付けさせる。		生徒の抱えるリスクを的確に把握するとともに、SOSが出せることは自身を守ることであることを徹底して指導する。
	③ 高い志と品性を培い、国際社会に貢献する人材を育成する。	活躍の場を地域、国、世界レベルで考えさせるとともに、必要な資質・能力を身に付けさせる。		メディカルコースをはじめ、先達の知識や経験を学び、なりたい自分を考えさせる。
		地域との連携、町おこし、ボランティア等の活動に積極的に関わらせ、多様な生き方があることに気づかせる。		
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
学校運営の見地から (①、②、③について) 教育活動方針、重点目標の達成に努める。	校長は、教育理念や学校経営についての考え方を明確にする。	・校務運営会議（毎週1回）を開催し職員の学校運営参画意識を高め、共通理解を図る。	A A	
	教育方針を具体化するための組織形態を有効なものとする。	・校長はリーダーシップを発揮し、学校運営を組織的に行う。	A A	
	教育課題解決のための組織を機能させ、組織力を高める。	・教職員の分担は適材適所を考え、一人一人の適性や能力を活かせるよう工夫する。	A A	
		・生徒の実態を組織的に把握し、教育課題を明らかにして解決を図る。	A B	
	SSH校及び理数科設置校として、学校の活性化及び教育活動の充実を図る。	・教育課題を解決するための計画を作成し実行する。	B B	
		・SSH二期目の集大成、三期目の指定を目指す。	B B	
	・メディカルコースを含めた理数科の活性化と人気上昇に向けて、全教職員の協働体制を構築し、具体的に行動する。	B B		
学習指導において、主体的に学び、進路実現できる学力を育てる方策を立てる。	・主体的・対話的で深い学びとなる授業のあり方を模索する。	B A		
・進路実現のための学力向上対策を講じる。	A A			
教職員が学校外に目を向け、広く実社会から学ぶ。	・各種説明会で情報公開を行い、地域・保護者の意見を聞き、校内で検討し、学校運営につなげる。	A A		
教務の見地から (①について) 円滑な学校運営に	学校運営の効率化を図り、授業時数を確保する。	・SSHや理数科の特色を活かした学校運営を行い、探究型の学習に積極的に取り組める環境づくりに努める。	B A	
		・現行の年間行事計画や教育課程の見直しを図りながら、効率的・効果的な学校運営の実現に向けた検討を進める。	A A	
		・授業時数の確保に努め、教科・科目の実質的授業時間を保障する。	A A	

資する。	学校行事の円滑な実施に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 関係する分掌と連携し、全体の調整を行いながら計画を立案し、実施する。 作成した資料データは校内サーバの共有フォルダに保存するとともに、情報の共有に努める。 行事後には問題点を明らかにし、次年度の実施計画の指針を立てる。 	A	A	A
	I C T機器等を安全かつ適切に運用・管理し、校務の効率化を一層進める。	<ul style="list-style-type: none"> N E I Nグループウェアの積極的な活用を促し、効率的な校務処理を進め、生徒と関わる時間の確保に努める。 	B	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 成績処理は正確を期するとともに、成績規程の周知徹底を一層図る。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板等、I C T機器の運用・管理を適切に行い、積極的な活用を促す。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> 機密情報の漏洩防止、個人情報保護等について、全職員に周知徹底し、事故防止に努める。 本校の教育活動についてホームページを活用して積極的に発信する。 	A		
生徒指導 指導」の見地から (②、③について) 挨拶、規範意識、マナー遵守の意識育成に努める。	基本的な生活態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 自分の持ち物の管理を徹底させるとともに、盗難を未然に防止する。 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 全生徒、教職員間で挨拶の励行を目指す。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> 学校生活において活動や場にふさわしい身だしなみを徹底させる。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> モラル向上についての講話を全校集会で年間4回以上行う。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> 校内におけるスマートフォン、携帯電話等のマナーについて指導する。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 自転車施錠の徹底や駐輪場の整備を行い、自転車盗難を未然に防止する。駐輪場の放置をなくす。 	A		
	教職員の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導に関わる情報を確実につかみ、タイミングを外さない指導や助言を行う。初期指導・初期対応を徹底する。 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 指導の流れを原則に教職員全員で指導にあたる共通理解をもつ。 	A		
	いじめ問題の未然防止に向けた取組強化 《いじめ防止委員会》	<ul style="list-style-type: none"> 未然防止に関して、防止委員会と連携する。 	A	A	A
	いじめの早期解決に向けた取組強化 《いじめ対応委員会》	<ul style="list-style-type: none"> 問題発覚後は、管理職・学年と連携を図りながら、速やかな初期対応を徹底する。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> 問題解決に向けては、丁寧な聞き取り、調査を心がけ、生徒・保護者双方の理解を得ながら進めるよう努める。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> 問題解決後は、関係生徒が好ましい集団生活を取り戻し、新たな活動が踏み出せるよう集団づくりを進める。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> 重大事態への対応は基本方針の行動計画に沿って対応する。 	A		
交通安全指導	<ul style="list-style-type: none"> 年1回のバイク実技講習を実施して安全指導を行う。 	A	A		
	<ul style="list-style-type: none"> 自転車のマナー向上、交通規則遵守の指導を行う。 	B			
	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故を起こさない、遭わないように常に注意を促す。 	A			
地域・保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業前に保護者宛の生活指導に関する文書を配付して連携を図る。 	A	A		
	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会などで現状報告を行う。 	A			
生徒指導 外活動」の見地から (②、③について) 自主自律	学校行事・生徒会活動を通じ、相互敬愛の念と社会性・連帯感	<ul style="list-style-type: none"> 自律した生徒個人の育成と集団としての自治活動を充実させる。 生徒会総務(執行部)は、リーダーシップを発揮し、活動の理解と協力を促す。 生徒総会の実施 高高祭の企画・運営 球技大会の企画・運営 赤い羽根募金活動支援 	B	A	A

の精神育成、部活動活性化を図る。	部活動を通じ健全な心身を育成する。	・部活動への加入を奨励し、加入率80%を目指す。 部・同好会説明会実施	A		
		・県総体・インターハイ・国体の壮行会、表彰式を行い、活動実践を激励したり評価する機会を年2回以上設ける。また、「部・同好会活動状況及び結果報告板」を通して、各部への関心を高め、応援する気持ちを喚起する。 5月県総体壮行会実施 7月インターハイ壮行会実施 9月国体壮行会実施			
進路指導の見地から(③について)	学習習慣の形成支援 ・1週21時間の家庭学習 ・初期指導の徹底 ・生徒面談の実施 ・生活記録シートの活用	・初回授業ガイダンスの徹底 ・オリエンテーションプログラムでの指導内容の充実	A	A	
		・各学年での学習時間調査の通年実施	B		
		・面談週間の設定	A		
キャリア教育充実、進路意識啓発、希望達成に努める。	自己理解促進支援と進路情報の提供 ・啓発的経験の計画的実施 「未来Clue Plan」の実施 ・進路指導室の機能強化 ・有効的な情報提供方法	・各種講演会の実施 ・大学訪問 ・高大連携事業 ・各学年毎に進路ガイダンスの実施 ・模試の精選と希望者模試の受験者数の適正化 ・進路探究を目的とした総合的な探究の時間(MC探究)の実施(SSH部と連携)	A	A	A
		・模試成績データの収集と分析、情報提供 ・各種の情勢分析や対策会議の実施 (出願検討会3回、1,2年進路検討会各1回以上入試反省会、職員対象講演会、教科会議等) ・成績向上のためのプラン提案・相談の実施 ・学年通信における進路情報の提供(月1回以上) ・保護者向け進路通信の発行(年4回) ・保護者向け進路講演会の実施(年2回) ・進路指導室・資料の活用促進対策 ・県外有力校視察 ・教科選択冊子の改定及び新規作成	A		
	3年次の進路実現に関する支援 ・共通テストの出願率95%、 ・共通テストの7科目型90%以上 (在籍者比率) ・大学等の進学率85%以上、 ・国公立大学合格者数 140人 ・東大、京大、東工大、一橋大 5人、医学科 5人 ・難関国公立大 20人	・入試問題研究(通年) ・検討会の実施(7,12,1月の3回) ・大学別ガイダンスの実施(3年7月、2年10月) ・学習合宿(夏) ・ハイレベル・大学別模試の実施 ・他校情報の収集	A	A	A
学習指導の見地から(①、③について)	学ぶ意欲や学び方を身に付けさせる。	・「総合的な探究の時間(MC探究)」などを使って学習動機を明確にし、学び方を身に付けさせる。(1,2学年)	A	A	A
		・効果的な内容の補習を計画し、適切に配置することで生徒が満足できる補習を行う。(全学年)	A		
	十分な補習体制を整備し、適切な計画を立てる。	・企業、オープンキャンパスに参加し進路実現への意識を更に明確にさせる。(2学年)	A		
	進路意識を育てる。	・オリエンテーションプログラムを実施し、これからの高校生活や進路希望実現への意識を明確にさせる(1学年)。	A		
	キャリア教育による進路意識の涵養を図る。	・進路講演会、社会人講演会などを実施し、将来の具体的な目標を明確にさせ、社会で必要なことを考えさせるとともに、進路実現に向かった学習意欲の向上を図る。(全学年)	A		
	社会性を育てる。	・政治や選挙等に関する知識の理解と体験的な教育活動を通じて、有識者として求められる力を身に付けるとともに課題を協働的に追求し解決する力	A		

		を培い、社会の形成者としての資質や能力を育成する。		
教育環境の見地から(②について)	心身の自主的な健康管理ができる生徒の育成に努める。	・学校保健計画に基づき、健康診断や健康相談等を実施し、生徒一人一人の心身の健康状態を把握する。	A	A
		自己の健康課題を自主的に解決できるよう以下の指導を実施する。 ・健康相談を充実させ一人ひとりの個人のレベルアップを図る。 ・学校医等、他機関と連携した保健指導を実施する。 ・定期的に保健だよりを発行する。 ・生徒保健委員会を活性化する。	A	
心身の健康を保ち、豊かな人間性や社会性を培う。	清潔な学習環境を整える。	清潔な学習環境を整えるための方策として以下の事柄を実施する。 ・職員の監督の下、毎日の清掃を確実に実施する。 ・大清掃で更なる校舎の美化に努める。 ・清掃用具の整備・充実に努める。 ・年3回のモップ交換を行う。 ・美化委員会の活性化を図りながら、年2回の校地内の整備を行う。	A	A
	安全管理に留意し、事故の防止に努める。	安全管理に留意し、事故の防止に努めるため以下の事柄を実施する。 ・消防署と連携して年2回の防災訓練を実施する。 ・事故発生時の校内救急連絡体制を確立する。	A	A
	不登校傾向の生徒への早期対応に努める。	不登校傾向の生徒及び特別支援を必要とする生徒への早期対応に努めるための方策として以下の事柄を実施する。 ・学年と連携し実態の把握に努め、対応について協議する。 ・職員研修会、生徒向け講話を実施する。 ・生徒相談室、医療機関等との連携を深める。	B	B
	生徒の読書意欲を高めるための資料選定と広報活動に努める。	・基本図書を中心に、調べ学習や小論文指導に利用できる資料を重点的に購入する。 ・掲示板の活用や広報誌の発行を通して、広報活動に努める。	A	
	教科との連携を密にし、学習資料の充実と活用を図る。	・新入生の図書館オリエンテーションを早期に実施し、図書館に親しみを持たせるとともに、図書資料の利用方法について学ばせる。 ・日常的な利用指導を通じて、利用マナーの向上を図る。	A	A
	図書委員の自主的な活動を促す。	・図書の貸出・返却業務や広報誌の編集等、図書委員が主体的に活動するよう促す。 ・年1回の蔵書点検を通し、蔵書の管理及び蔵書構成について検討する。 ・コンピュータ利用による蔵書管理・検索の早期実現に向け環境整備を行う。	A	
	保護者会との連絡・調整にあたる。	・保護者会会員名簿を年1回作成する。 ・保護者会総会を年1回、保護者会役員会を年2回開催するための準備を行う。	A	
	各分掌と連携し、保護者に学校の情報を伝える場の設定を行う。	・保護者会便りを年3回発行する。 ・学年・分掌と連携し、保護者会総会・役員会の出席者の増加に努める。	A	
1学年の見地から(①、②、③について)	心身を鍛え、質実剛健の精神を培う。	・高高生としての誇りを持ち、自ら考え、節度ある行動をとる。	A	A
		・学校行事、部活動に積極的に参加し、苦しくても頑張り抜き、充実した高高生活を目指す。	B	
		・自己管理を心がけ時間を守る。	A	
	高い目標を掲げ、基礎学力を充実させるとともに、何事に対しても粘り強く取り組む堅忍不拔の精神を養う。	・予習・授業・復習のサイクルを確立し、意欲的に学ぶ姿勢を身に付ける。 ・フォーサイト手帳を活用することで、自分の生活習慣を見直し、自己管理能力を高める。	A	A

りを持ち、高 高生活を確認 立する。	社会の一員としての規範意識を持ち、自主自律の精神を養う。	・自己の進路希望をできるだけ明確にし、文理選択を決定できるようにする。	A	A		
		・互いに切磋琢磨し、自らの能力を高め、規律ある生活を送ることで、学年集団の向上を目指す。	A			
		・学びの場として、校内の清掃を徹底し、学年・学級の雰囲気づくりを心がける。	A			
		・挨拶を心がけ、周囲への思いやりや、感謝と尊敬の念を忘れずに行動する。	A			
2学年の 見地から (①、②、 ③)につい て	進路希望実現のために努力し続ける姿勢を持たせる。	・日常的な声かけや面談を通しての情報を適切に共有し、生徒の抱える問題に速やかに対処する。	A	A		
		・探究活動（ゼミ活動）をとおして自分の将来像を探る。	A			
		・予習・授業・復習のサイクルを確立・習慣化させるとともに、授業への集中力を高める。	A			
		・「生活記録シート」を活用して、3点固定、週21時間以上の家庭学習習慣を確実なものにする。	A			
志を持って、自主 的に高 高生活に取 り組む。	中堅学年として、校内活動の中心となって動く意識を高める。	・部活動、学校行事、MC探究IIを通じて、自発的なリーダーシップや協調性を育てる。自己管理を心がけ、5分前完了を目指す。	A	A		
		・心身ともに健康的な生活を奨励し、服装・挨拶、清掃の徹底などに関して粘り強く指導する。	B			
		最高学年としての自覚を持ち、何事にも自ら進んで取り組む姿勢を育てる。	・服装の見直し・清掃の徹底・挨拶の励行などの基本的生活習慣を確立させる。		A	A
			・行事や部活動を通じて、より高いチームワークやリーダーシップを身に付けさせる。		A	
最高学年 としての 自覚を持 ち、進路 実現に挑 戦する。	自主的な学習習慣を完成させ、より高い学力を身に付けることで、進路希望を実現させる。	・日々の活動を通して、互いに切磋琢磨する集団を形成する。	B	A		
		・意欲的に学ぶ姿勢を大切に、授業に集中して取り組むよう指導する。	A			
		・学習記録シートを活用し、効果的な家庭学習や生活習慣の確立をサポートする。	A			
		・進路指導部と緊密に連携し、よりよい進路選択ができるよう指導する。	A			
	保護者や家庭との連携を密にし、心身の健康を支援する。	・学年集会や学年通信を通して、学年全体の進路意識高揚を図る。	A		A	
		・三者面談などを通じて、家庭と連携しながら生徒を支援する。	A			
		・日常的な声かけ、面談等を活用しながら、生徒の問題把握に努め、学年全体で迅速な対応を行う。	A			
		・高次連携事業等を通し、生徒の理数科目に対するモチベーション、ならびに探究心、確かな学力の定着を図る。	A			
理数科の 見地から (①、③ につい て)	理数教育の充実と改善を図る。	・理数科ガイダンス、課題研究発表会等を通し、理数科全体の結束力を図る。	A	A		
		・理数トップセミナー、各種オリンピックへの積極的な参加を促し、理数科目に対する興味関心を喚起する。	A			
		・中学校訪問を行い、中学校側に本校理数科の魅力を工夫して説明する。	A			
		・オープンスクール、青少年のための科学の祭典等、本校理数科生徒自らによる、理数科の魅力を中学生等々にアピールする場を積極的に設ける。	A			
		・中学生と本校理数科生徒が学び合いながら、本校の魅力を伝える場を設ける。	A			
		・SSH運営において、魅力ある理数科を構築するプランを提案する。	B		A	
・SSH運営において、SSH部への全面的な協力をする。	A					
SSH部 の見地か ら (①、	多角的視点・科学的倫理観を備え、科学技術の有用性を理解する能力を育成する。	・理数科で実施されるMC課題研究の活動を通して、旺盛な探究心と創造性、課題設定能力、課題解決力及び高いコミュニケーション能力を育成する。	A	A		
		・大学や地元企業との連携を図り、課題研究並びに				

③について) 日本の科学技術の未来を支える人材の育成を図る。		発表会を実施し、最先端の科学技術に触れ創造性、探究心を養う。	A			
	科学技術の発展に寄与できる論理的、批判的に思考する人材を育成する。	・MC探究の活動を通して、科学的探究心、論理的思考力、コミュニケーションと表現能力を養う。	A	A	A	
		・地域や社会と連携した探究学習を通して、課題解決の応力を伸ばし、豊かな表現力を養う。	A			
	郷土の自然・産業を理解し、科学をテーマに世界の人々をつながる力を育成する。	・クロスカリキュラムの実践を通して、過去の科学的業績と最先端科学との結びつきを実感を持って理解する。	A	A		
		・地域に関係する科学史をテーマに、地域環境、企業、人物について学ぶ。	A			
地域と世界を結ぶグローバルな人材を育成する。	・県内外のSSH校とのネットワークや海外で活躍する卒業生とのネットワークを構築し、国際性とコミュニケーション能力を育成する。	B	A			
	・英語によるプレゼンテーション活動を行い、英語での伝達能力を養う。	A				
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・MC探究や課題研究をとおして、生徒が主体的に学び、行動できる態度を身につけることができた。 ・東大、京大等の難関大学や医学科への合格をはじめ、大学等への進学率が86.4%となり、大きな成果を残すことができた。 ・ICTを活用した授業改善に取り組み、思考力、判断力、表現力等の育成に努めることができた。 ・新型コロナウイルスの感染対策を講じながら学校行事を実施することができ、生徒の自治的活動を支援することができた。 ・校内におけるスマートフォンの使用ルール、マナーの徹底が十分ではなかった。次年度に向けて取組の改善を検討する。 		総合評価 A			